

文化・芸術

綿強撚糸ジャカード筒織上着

「メキシコちゃんちゃん」/インディオ模様

1983年

新井淳一 (1932~2017年)

新井淳一が、自身の上着として着用していた一点です。本作を着て、指人形を操る新井の写真なども残っており、愛用していたことがうかがえます。

エッセイストとしての顔ももっていた新井は、WORLD JAPAN(ウーマンズ・ウエア・デイズ・ジャパン)誌に、「天衣無縫」というタイトルのエッセーを連載していました。タイトルは「天女の衣には縫い目がない」という故事から来たものですが、「縫い合わせることなく衣服を織る」ことにひかれた新井は、首と手を通す穴を開け、筒状に織り出す手法で、この貫頭衣「メキシコちゃんちゃん」を制作しました。メキシコのインディオの模様が織られており、裏(内側)は、白黒反転して同じ模様があらわれています。民族衣装を収集、研究しています。新井はそのプリミティブな魅力に触発されて自身の制作に取り組みむことがありました。そんな新井に影響を受け、当館初代館長・大川栄二も、アフリカのお面や像などを収集するようになりました。

(池田)

名画の扉

大川美術館企画展から

